

青嶺 Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

激闘！ 競い合い、称え合う 素晴らしき体育大会

先日行われた体育大会は生徒たちの溢れんばかりの笑顔に彩られた、素晴らしい体育大会でした。生徒たちの姿を見て、特に胸を打たれたことがあります。クラスを二つに分けての分団対抗で競い合いましたが、その過程でおとなしめの三年生がまさに後ろ姿で下級生を引っ張っていました。

競い合っているけれども、お互いの努力や頑張りを理解し、その姿を見て心から称える。生徒たちの姿から上手いかないときも粘り強く取り組み、最後の最後まであきらめないこと、相手の努力や頑張りを認め結果に関わらず称えること、頑張る姿勢を貫くことで集団は動くことを見せてもらいました。

本日の安心感、共に努力し成し遂げた者同士が分かち合え、成長はそれを実感して初めて自分の物となります。これから一年間、競い合い称え合う、成長し続ける学校を全員でつくってきたいと、決意を新たにしたい最高の体育大会でした。

最後まで、やりきる

人はそれぞれ得意な事や、好きな事が違います。どの分野で一番力を発揮できるか、その「適性」はなかなか自分では分かりません。自分がやりたい事とやれる事が違っているときに、受け入れるのはとても苦しいことです。

学生時代、私は陸上競技の短距離の選手でした。花形の百メートルの選手たちはかっこよく、まして決勝に残る八人は競技者の憧れです。高校から本格的に競技を始めた私はタイムが縮まったものの途中で伸び悩み、無理をすればケガをする繰り返しでした。そんな時に先輩から四百メートルへ転向したらどうだろうか、と助言されました。随分悩みましたが、最終的には転向を決意し、他校の練習に参加させてもらったり、必ずプラスアルファを科したりしながら練習に励みました。

大学生になっても競技を続け、最後は百メートルよりも良い成績を残すことができました。自分に本当に向いている事は何か、どうしたら輝けるか、大学でも悩みました。最終的には「やり切った」と実感しています。夢は持ち続けつつも、自分で選んだ「やるべきこと」を続け、目の前の「やるべきこと」を続け、自分が納得できるように「やりきる」ことが大事なのではないでしょうか。

今は自分では気付けなかった「適性」を見抜き、転向のアドバイスをしてくれた先輩に深く感謝しています。

子育て雑感

私は国語の教師で、大学は文学部国文科に進み教員免許を取得しました。読書や映画が好きで冒険や旅に強い憧れがあり一人でもよく旅をしています。息子はラジオやパソコンが大好きで、工業大学に進み仕事もそういう方面に就きました。娘は農学部で仕事も農業関係です。前回、子どもと親は別人格という話をしました。趣味嗜好もそうですが、勉強や部活動に臨む姿勢もまったくバラバラで、我が子ながら理解できず、イライラしたりハラハラしたり。勉強は机についているもの、一人静かに集中して行うものという私の考えは、あっさり覆されました。息子は居間で家族がテレビを見ている中で、寝そべって問題を解くスタイル。部活動はマイペースで楽しみ、人と競うなんて眼中にありません。娘は責任感が強く、自分自身を追い込んでいくタイプです。

真逆に近い二人ですが六歳年が離れ、息子が上京して家を出ているのでお互い良い関係で

校長室より

体育大会の後片付けの最中に、私服の二人の青年が生徒に交じってテキパキと動いていました。時折指示を出しながら、率先して働いています。二人は卒業生でしばらく言葉を交わしお礼を言いました。「後姿で引張る」「後輩を大事にする」「居心地の良い雰囲気」これまでお知らせしてきた青嶺中の伝統の一端をここでも感じました。

そして、昨日の小学校の運動会でのことです。黒川小の校長先生から連絡があり「青嶺中のたくさんの子が片づけを手伝ってくれました！どうぞお礼をお願いします！」ということでした。その様子を頭に浮かべ感動で胸がいっぱいになりました。大切に育てられた子どもたちは人のことも大切にします。これからも大切な子どもたちを大切に育てます。青嶺校区は本当に素晴らしい！